会 議 録

会議の名称	令和7年度第1回上尾市図書館協議会	
開催日時	令和7年8月4日（月）午後1時30分から午後4時50分まで	
開催場所	上尾市図書館本館2階 集会室	
議長(委員長)氏名	代島常造	
出席者(委員)氏名	須賀聡、近藤博昭、岸清俊、加藤寛子、福島禎子、太田尚美、代島常造、清水松代、高村裕美、棚橋 佳子	
欠席者(委員)氏名	太田光登、石田賢一	
事務局(庶務担当)	山内館長、下寄副主幹、中島主査、高橋主査、吉川主査、久我主任、米川主任、鈴木主任、里見主任、岡田主任	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 報告 ①利用者モニタリング調査の結果について ②令和6年度上尾市図書館事業報告について ③令和6年度第3次図書館サービスの進捗状況について ④令和7年度上尾市図書館事業概要について ⑤図書館本館更新の進捗状況について (2) 議題 ①第3次上尾市図書館サービス計画の事業計画及び進捗管理について ②第4次上尾市図書館サービス計画および第4次上尾市子どもの読書活動推進計画の策定について	別紙「議事の経過」のとおり
議 事 の 経 過	別紙「議事の経過」のとおり	傍聴者数 5名
会 議 資 料	令和7年度図書館利用者アンケート 上尾市図書館要覧（令和7年度） 資料1-1 第3次上尾市図書館サービス計画の事業計画及び進捗状況報告書 資料1-2 第3次上尾市子どもの読書活動推進計画 資料2-1 令和7年度図書館事業概要 資料2-2 令和7年度子どもの読書活動支援センター事業概要 資料3 図書館本館の更新の進捗状況について 資料4 第4次上尾市図書館サービス計画（案） 資料5 第4次上尾市子どもの読書活動推進計画（案）	
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和 年 月 日 令和7年10月3日 署名済み 議長（委員長）の署名 _____		

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	報告① 利用者モニタリング調査の結果について
議長	報告①について意見、質問はあるか。
A委員	アンケートの文書記入部分について文章の羅列ではなく体系別に分けたものがあるか。
事務局	現状、羅列のみである。今後、まとめていく。
B委員	集計結果について、Web 回答が2件のみであるが、Web 回答ができることについての周知はどのようにしたのか。
事務局	Web 回答についての周知は、アンケート用紙とは別に QR（二次元）コードを掲載したチラシを作成し、アンケート用紙と一緒に設置した。時に若い世代の利用者へ個別にチラシを配布しアンケートの協力を促したがこのような結果となった。
B委員	手書き回答は集計作業も大変である。Web 回答についてももう少し分かりやすく案内出来たらもっと回答が集まると思う。
C委員	回答数 1,924 件、相当な件数である。カウンター越しで1人1人に渡した結果によるものなのか。その場で記入できるようなスタイルだったのか。
事務局	その通りである。スタッフからアンケート用紙を手渡されるとそのまま付近の記載台で記入している利用者がたくさん見られた。
C委員	今後もそのようにすると思う。
議長	本議題については、以上でいいか。 (異論なし)
事務局	報告② 令和6年度上尾市図書館事業報告について
議長	報告②について意見、質問はあるか。
D委員	大学の授業の取り組みとして、学生に、全国のいくつかの図書館をピックアップし、図書館要覧を徹底的に読み込ませ、発表させる機会がある。学生たちには同規模の人口で比較したりして、どうしたら利用者を増やせるかなど考えさせている。市が向かっていく方向性と図書館が掲げているビジョンがマッチして事業展開している図書館は上手くいっていることが分かる。また、多くの自治体の要覧を見る機会がある者として、上尾市の要覧のまとめ方や取り組み内容は平均以上に素晴らしい。その上で、他の図書館の取り組み事例など、今後、アドバイスができると考えている。

E委員	31 ページ「7. 図書館予算」について、図書館本館改修事業費が含まれていないようだが、これはあえて載せていないのか？
事務局	31 ページ上段「(1)令和 7 年度当初予算」には、本館改修工事に係る予算も含まれている。下段「(2)令和 7 年度当初予算の内訳」は資料に関する内容がメインになっており、ここに工事に係る費用は含まれていない。
E委員	(2)の「ア 図書館費（職員人件費を除く）」の項目に“改修費を除く”と補記した方が分かりやすい。「イ 子どもの読書活動推進費」が大幅に減っているの で、これが影響しているのかと考えたがそうではなさそうだ。
事務局	子どもの読書活動推進費は各年に行う事業があり、例えば“読書パスポート” の印刷製本費は 2 年分をまとめて発注することにより各年で差が生じる。
議長	30 ページ「(17)利用者数」の概念は、資料の貸出を受けた人数であり、“来館者” とは別の概念か。
事務局	お見込みの通り。“利用者数”は貸出し利用者数であり、“来館者数”は単に図 書館に来た人数。明確な違いは、貸出しの有無である。
議長	とすると、この“利用者数”には電子図書館の利用者は含まれるのか。
事務局	含まれない。電子図書館の利用者は別のカウントである。
A委員	Web 利用者はカウントされていないということは、利用者の総数ではない。Web であろうと来館であろうと、利用者としてカウントし、要覧に載せなければなら ない。また、予算のページの改修費用の内容もしっかり載せた方がいい。
事務局	電子図書館の利用者数については、22 ページに別枠で設けている。また、改 修費については、今後しっかり載せていく。
議長	本議題については、以上でいいか。 (異論なし)
事務局	報告③ 令和 6 年度第 3 次図書館サービスの進捗状況について
議長	報告③についてはこの後の議題①の中でまとめて意見、質問を受け付ける。
事務局	報告④ 令和 7 年度上尾市図書館事業概要について
議長	報告④について意見、質問はあるか。 なし
事務局	報告⑤ 図書館本館更新の進捗状況について

議長	報告⑤について意見、質問はあるか。
A委員	基本設計を進めているようだが、基本的な要望事項はまとめてあるのか。
事務局	基本計画は施工条件をより詳細に決めていくための躯体調査である。身近で居心地の良い空間づくりを目指す中でどこまでできるのかを調査した上で、基本設計に入っていく。大まかな方向性は示しているが、現実性があるかを現在、調査しているところである。
A委員	どんな図書館を作りたいか、市民の要望を分析し、それを図書館が設計に反映させるためにその要望をしっかりと伝える必要がある。“居心地の良い図書館”のような漠然とした要求では、3年後に新しい図書館が開館出来ると思えない。私は上平地区の新図書館計画を作成した立場にあるが、その計画は理由も聞かされずに廃棄された。新たにポッと浮上したのがこのリノベーション計画である。以前の計画作成当時、現在の場所ではこれからの時代の図書館を作るには、容量が足りないのだという理由で、新たな場所での図書館構想を作った。駅からは離れるが、十分な駐車所の確保ができ、市民の要望も取り入れられ、地域の住民に還元できる複合的な施設が出来上がるはずであった。それが突如としてこの場所でリノベーションをするのだと言われても、その当時の市民の意見、今回のアンケートによる意見を取り入れた具体的なビジョンを示してもらわないと成り立たないと思う。
事務局	令和5年度、市民ワークショップを実施した中でたくさんの意見をいただいた。それらの意見を踏まえた上で、令和6年度8月、「図書館本館更新方針」を策定、大規模改修をすることを決定した。その前提として、現地建て替えするか、民間施設を大きく借上げて本館を移転するか、現地改修工事するかについて、市民と意見交換、それから座談会も実施した上で決定した。当然、これに先立ち、アンケートを実施し、集約した内容を提供した。また、当時、ワークショップに参加した市民からは、もう少し情報が明確になってから、もう一度市民意見を聞く機会を設けて欲しいという要望があり、そこで、今回、リノベーションという大きな方向性を示し、どんな改修ができるのかを整理し、それらの情報をお示しした上で、より良いものに仕上げていくというステップを考えている。
議長	ワークショップはいつ頃、何回行うのか。
事務局	現在、基本計画を実施する中で分かり得た事実と市民からいただいているアイデアを落とし込んだものをベースとし、おおむね秋口の実施を考えている。何も示せない状態では、市民も意見を出すことは難しいと思うので、適切な題材を準備した上で開催できるよう準備していく。
議長	今後、図書館から具体的なイメージを示して、市民からの意見を聴取する機会があるという認識でいいか。
事務局	お見込みの通りである。
A委員	図書館で示す案は、市民の意見を反映したものを示しているという認識でいいか。
事務局	必ずしも市民意見を100%受け入れられるとは限らないが、出来るだけ取り入れていきたいと考える。
F委員	アンケートの回答者はリノベーションを進めることについて理解したうえで

F 委員	回答しているのか。
事務局	おおむね、周知のことであるが、中にはそれを知らない市民もいたようである。
F 委員	アンケート結果の 36 ページに掲載されている市民意見を参考に、出来るだけ反映していけるといいと思う。
議長	本議題については、以上でいいか。 (異論無し) 休憩 10 分
事務局	議題① 第 3 次上尾市図書館サービス計画の事業計画及び進捗管理について (基本方針 I)
議長	基本方針 I について意見、質問はあるか。
議長	“特別閉架”とはどのようなものか。
事務局	“特別閉架”とは、この図書館に置ききれない資料を平方東小学校と平方北小学校の空き教室に置いている閉架書庫のことである。
E 委員	7 ページ「1.7 行政関係」について、実施状況と分析がかみ合っていないのではないか。分館の収集及び排架が出来なかったのか？
事務局	そのとおり。分館の見直しが出来なかった。先に本館について、検討していたが、再検討する課題があったため、分館を検討するまでに至らなかった。
E 委員	今後、図書館としては Web 公開されている行政資料を電子媒体の状態に収集していくのか、それとも紙媒体にして収集していくのか？
事務局	これは、難しい問題であると認識している。行政資料の多くは Web で公表されており、図書館としては主要館に開放端末を設置し、検索して閲覧できるような環境作りに努めている。しかしそれだけではデジタルデバイドの問題が解消できず、事実、閲覧したいけれどできないという利用者の声もある。このような状況を踏まえると、当面は紙と電子の両面を押さえないといけないと考え計画立てをしたが、計画通りの整理に至らなかった。
A 委員	Web の情報は膨大な量があり、このデータを紙媒体に移す処理は相当厳しい。自らハードルを上げない方がいい。達成率が下がる一方である。今後、ますます Web データは増えていく中で、紙媒体で発行されたものはそれでよしとし、その収集に努めるという目標でいいのではないか。
D 委員	行政側において Web で公開した情報について、掲載期間の扱いもまちまちであり、一端公開された情報もいつ消えてしまうか分からないという現状がある。図書館側としてはあるべき情報を残すことを任務としており、行政側が定期的に出す資料を郷土資料として保存し、知の拠点としての立場を保つ必要もある。従って、上尾市としてのルール作りもした方がいい。このような研究を始めている大

D委員	学の先生も少しずつ増え始めているので、これがモデル化し広がっていくといいと考えている。埼玉の中でも進めていると聞いている。
議長	去年の3月まで埼玉県にいたが、県では、県立図書館が積極的に電子データを収集、それを保管し、閲覧できるように、ハードに落とし込み、電子上で見てもらう形を始めている。上尾市として、上尾市しか持っていない電子行政資料をどのような形でどの部署が主体となって提供していくか、よく市全体の中で検討した方が良い。これはとても重要な課題である。
事務局	本来、国立国会図書館のような納本制度的なシステムが必要だと考えているが、それは難しい。もともとこの項目の初期のコンセプトは、冊子で発行された資料を収集するという方針を考えていた。しかし、図書館の情報発信力としてそれだけでは弱いと指摘する利用者も一定数いる。将来的には電子データで発信された資料も何らかの形で保存していく必要があると考える。それを紙媒体にするかどうかは、現状、過渡期であることから引き続き検討していく必要があると認識している。このような状況下、分館への対応が難しかったという事実がある。今後は、委員の皆さんからいただいた意見を参考にもう少し掘り下げていきたいと考える。
E委員	今の説明を聞いた上でやはり、この分析の欄に書く文言としては、適していないと思う。
議長	この分析欄にどのように書くか、よく検討するように。
A委員	電子化のルール作りを先行して進めないと、職員も大変だし、我々もどう評価してよいか分からない。例えば。「今年度中にルール作りをする」というような目標を先にあげておくのがいいと考える。
議長	この問題は当面の運用をどうするかということと、今後将来的にどうしていくかの二点の問題を整理していく必要があると思う。
D委員	国会図書館でワークというデジタル化に取り組んでおり、そこでルール化ができ始めている。本当に今まさに過渡期である。神奈川県はすでに取り組んでいるが、実際、どこから手つければいいのかわからないというほど難しい問題である。これを図書館側でやっていくということになったら、そのための人員配置を要求しないととても実現できない。
議長	しっかり研究を進めるように。
G委員	埼玉県も学校もデジタル化が進んでいる中で、この過渡期で悩んでいる。県に至っては、庁内でプリンターなど印刷機が減らされていると聞く。一部の利用者には、デジタルが苦手な方もいると思うので、そういった方のニーズも踏まえつつ、時代の流れに合わせて進めていかなければならない。
議長	基本方針1については、「1.7 行政関係」の自己点検評価の結果が1で、一番達成率が低かった。状況の変化もある中で、最初の目標設定がそもそも時代に合わなくなりつつあるのだとしたら、それをどうするのかという問題がある。途中で目標を修正するのか当初のままで進め、次の5年間で目標作り直すのか。
A委員	総合評価としてまとめるのではなく提案という形で今出た意見を表現してはどうか。

事務局	この評価は、あくまで図書館としての自己点検を評価したものである。委員の皆さまからの意見は、いかなるものも第三者評価になりうると考えており、我々はそれらの意見を踏まえ、評価並びに次期計画の検討に生かしていきたいと考えている。
D委員	何が起こると成功したということになるのかという具体的なイメージを持つといい。アウトプットの考えである。その例として、5ページ「1.5 予約. リクエスト」の“方向性”に、「Web 予約の推進」とうたっている。推進した結果 web 予約が増えたら目標達成であり、そういった目標設定になっていない。恐らくイメージは持っているのだと思うが、それが事業計画の概要にうまく表現されていないように思われる。従って、何回掲載することが目標値ではなく、結果、何が起こるかということを示した方がいい。さらにその目標が市民の考えと結びついていないとならない。市民は情報を得ているか否かが全てである。
事務局	アウトプットやアウトカムという考え方は当然意識しなければならないと認識している。もう少しダイレクトでわかるようなアウトプット、アウトカムを設定する必要があると考える。これも過渡期である。新しい進捗管理を進める中で一つ一つ対応していきたい。
議長	提案であるが、この「1.7 行政関係」の評価が1であることについて、このままだと結果的にできなかったと捉えられてしまうため、「状況の変化に伴い、新たな課題が発生したことにより、このような評価になった」と付記してはどうか。 他に意見無いか。 (意見なし)
事務局	議題① 第3次上尾市図書館サービス計画の事業計画及び進捗管理について (基本方針Ⅱ)
議長	基本方針Ⅱについて意見、質問はあるか。
議長	「2.10 多文化サービス」の評価が1であるが、内容について説明してほしい。
事務局	多文化サービスについて“広報あげお”の他、ホームページ等に掲載することを目標にしたが“広報あげお”にしか掲載することが出来なかった。
議長	広報活動が充分行えなかったということか。広報手段は何が一番効果が高いか考える必要がある。例えば、日本語を母語としない小学生がいたらその人たちにチラシを配るなど効果的な広報の仕方を考えるといい。
事務局	チラシの効果ではないが、先日、図書館の近くにある日本語学校の先生からこの学校に通う外国籍の生徒に図書館の案内をして欲しいとの依頼を受け、合計100人くらいの学生に図書館の使い方の説明や館内案内をした。実際にその学生たちと接してみると、こちらが思ってる以上に日本語を理解していることが分かった。今後のどのように外国籍の人に対してアプローチすると効果があるのか考えるためのいい機会になった。
議長	こちらからのアクションではなかったかもしれないが、地域との接点ができたという意味で充分アウトカムとなり得る。このことを評価に加えることはできな

議長	いか。
A委員	全体的に目標設定のハードルが高すぎる。現にこのようなサービスをしているわけだから、それを上手に紹介できればいい。
D委員	この計画はもう1年あるのか。結果が出るのは、2年後とか3年後のパターンもあると思うので、何年間か取り組んだことが数年後、結果に結びついたという分析の書き方もあると思う。
議長	他に意見無いか。 (意見なし)
事務局	議題① 第3次上尾市図書館サービス計画の事業計画及び進捗管理について (基本方針Ⅲ)
議長	基本方針Ⅲについて意見、質問はあるか。
議長	20ページ「3.3 青少年サービス」について、これは駅前分館の利用が増えているのか。
事務局	駅前分館は駅前という立地から中・高校生をターゲットに、青少年向けのコーナーを設置している。図書館要覧25ページにある通り、駅前分館の青少年資料の貸出資料数が3,392点で前年度の2,720点より増えている。
G委員	これは、青少年向けの図書資料の貸出し数であって、青少年たちが借りたというわけではないのか。
事務局	青少年が借りたのではなく、青少年向けの本が貸出しされた数値である。
議長	青少年向けが活性化していることはなかなか素晴らしい。そこが難しいところとして、子どもの読書計画においては指摘されている。
B委員	21ページ「3.4 子供の読書活動支援」について、子どもの読書活動支援センターでボランティアスキルアップ講座を企画しているとある。自分は小学生と中学生の子どもがおり、それぞれの学校で朝の読み聞かせボランティアをしているが、そういう人たちにとってこのようなボランティア育成講座はとても魅力的だと思う。学校単位でやってるボランティア活動もあり、学校への出張講座があると、保護者や地域の方も参加できると思う。学校とも連携することで子どもたちの読書への興味付けに繋がると思う。
事務局	ボランティア講座は非常に人気のある講座だった。学校のボランティアさんへの支援は支援センターの大きな仕事の一つであり、学校へ直接出向いて指導を行っている。学校からの依頼は必ず対応している。PRが少し足りなかったかもしれないが、学校からの要望があれば行く。
D委員	出張講座や外部で行うコラボ事業の参加者は、イベント参加者として数えるが、図書館の利用者としてはカウントしているのか。今後は、このような小学校へ出向いての出張講座のようなスタイルが増えると思うが、これらの参加者も図書館の利用者と同等であると考えている。

事務局	図書館要覧 17 ページから 19 ページに支援センターの事業内容が掲載されている。19 ページに地域ボランティアへの支援の項目が、出張型である。
D 委員	図書館全体の利用者数は減っているようだが、このような活動は広がっているような見方もできる。要は見せ方の問題だと思っている。図書館の努力はどこまで見せるかということが大事である。図書館から出向いて行う活動は以前より絶対増えていくし、その成果をうまく表せる方法を検討するといいと思う。
B 委員	子どもの読書活動支援センターは富士見小学校内にある。センターの活動について SNS 上にあった QR コードを読み込んで見たところ、最後の更新が 2023 年であった。動きのない情報を QR コードで案内する意味はないと思う。広報あげおは、毎月届くが隅々までは見てないので、SNS をもっと活用したらどうか。
議長	先ほどの D 委員の意見について、統計のとり方、見せ方の工夫は今後の検討課題として取り組んでほしい。
G 委員	学校では、校長や先生の考え方で読書活動を優先させるのか、それ以外のことを優先させるかわ変わってくる。保護者の意見は学校にとって、とても重要であるため、ぜひ、保護者からも学校で読書活動をして欲しいと推してもらうことで両方が結びついてより活性化されていくと思う。
議長	他に意見無いか。 (意見なし)
事務局	議題① 第 3 次上尾市図書館サービス計画の事業計画及び進捗管理について (基本方針Ⅳ)
議長	基本方針Ⅳについて意見、質問はあるか。 なし
議長	では以上の審議を基に意見をまとめ、第 3 次図書館サービス計画の全てを含めて総合評価・第三者評価として議長に一任するがよいか。 (異議なし)
事務局	議題② 第 4 次上尾市図書館サービス計画および第 4 次上尾市子どもの読書活動推進計画の策定についてⅣ)
議長	議題②について意見、質問はあるか。
議長	スケジュールの確認であるが、今日ここで協議した内容が、いつ頃市民に示されるのか。
事務局	予定としては、今年 12 月ぐらいにパブリックコメント案を公開し市民の意見徴取をしたいと考えている。逆算すると 11 月ぐらいに第 2 回の図書館協議会で素案としてまとめた上で、12 月にパブリックコメントを 1 ヶ月程度実施し、第 3

事務局	回の図書館協議会と並行して教育委員会の協議に挙げ、最終的な微調整を行った上で3月の教育委員会に議案として上げ、完了するスケジュールである。
議長	この協議会で議論できる機会はあと2回あるということか。
事務局	今日は前回の協議会で骨子を示してから半年程度経過していることから進捗状況の報告と、何か方向性として明らかに踏み間違えてるということがあれば、それについてご意見をいただければ、修正できると考えている。
D委員	基本的な質問であるが、第3次サービス計画が令和3年度から7年間度までで、今回、第4次の計画を作ろうとしている。位置づけ的には、第3次を継承していくとのことだが、何が変わったのか、内容の強弱があると思うのでその辺りを知りたい。「読み聞かせのまち上尾」は、キャッチフレーズなのかそれともビジョンなのか。
事務局	「読み聞かせのまち上尾」は、第1次計画の時にスローガンとして上げられたもので、これは、当時、図書館協議会の委員から提案していただいた。家庭・地域・学校が一体となって読書推進を進めていく計画であることをアピールしている。また、子どもの読書を推進していくためには、保護者だけではなく、子どもを取り巻く大人も読み聞かせに取り組んで欲しいという市側のメッセージでもある。国のアンケート結果からも、「幼い頃から本に親しんで成長した青少年は、本や活字に抵抗感がなく、時間的ゆとりができた時、必ず読書に戻ってくる」と結論付けられている。保護者や地域の大人が協力して、幼いうちから本に親しむ習慣を与えることが、後々の読書習慣に良い影響を与えると考え、スローガンとしている。
F委員	第4次計画は第3次計画を継承するということであるが、コロナ禍を経て図書館の取り組みも変わってきていると思う。これらを踏まえたプラスアルファの取り組みなど加えることはできるのか。
事務局	第3次計画の策定は令和2年度が作成年度であり、まさにコロナ禍であった。“新しい生活様式”や“society5.0”というキーワードがあった。資料4の6ページの上段部分について、第3次計画では“新しい生活様式と展望”というタイトルであげていたところであるが、第4次計画では、視点を変え、今、向かい合わなければならない事柄をテーマとして残している。具体的には「今後の在り方」での提言をもう少し強調したり、SDGsに向けた取り組み、生成AIの活用など踏まえた上で、テーマを挙げた。その他にも、第3次計画の反省点を入れながら各項目を調整している。なお、読書プランについては、資料5の2ページ目「(3)の策定方針」にある通り、令和5年3月に国が示した第5次子どもの読書活動に関する推進計画の中でも我々が特に重要だと考えている①～④の視点に立ち、内容を継承しながらも改訂していくものである。
G委員	令和12年度までの計画であるので、資料5の27ページ、「保育所・学校巡回セット」とあるが、可能であれば電子書籍も対応できたらいいと思う。ただ、中には電子書籍だと目によくないという保護者の考えもある。また、欧州の方では紙媒体で文字を見せる教育に戻っているということもある。教育にとってどちらがいいのか難しいところだと思うが、今後、society 5.0の観点からデジタル媒体に慣れさせる取り組みはどんどん進んでいくと思うので、選択肢として電子書籍の貸し出しもできたらいいと思う。多様化の時代、保護者の中でもどちらがいいか選べたり、子ども自身にも考えがあると思う。この紙の重い本を化石燃料を使ってガソリンで運ぶことは環境によくない。物ではなくてサービスの提供として電子書籍を取り入れることは重要であると思う。電子化に慣れていく子どもたち

G委員	も増えていくと思うので、今後は子どもたちの中で、こんなに重いものを運ぶのは時代遅れだ、という発言も出てくる可能性もあるかなと思う。
事務局	この計画は学校や指導課の教員と一緒に作っている。引き続き、連携しながら進めたいと思う。
E委員	本館リノベーション工事で仮本館のことが令和8年度から12年度の第4次サービス計画に入ってくるわけだが、基本的に、ここに掲げる内容が仮本館でもできるのか。
事務局	ここに記載することは概ねできると考えている。仮本館を設置する前提として、本館機能を止めると分館のネットワーク機能も全て停止することになり、分館での貸し出し、返却が出来なくなってしまうため、ネットワーク機能を維持することが目的の一つである。その中で、計画に掲げるサービスも可能な限り取り組めるようにしたいと考える。ただし、どうしても制限せざるを得ない部分も出てきてしまう。その中でどういう形で示していくか今後の課題であると考えている。
議長	他に意見無いか。 (意見なし) 以上